

# 輸送経済

9/22

THE YUSO-KEIZAI

平成21年  
(2009)  
(火曜日)  
週刊

第2863号 昭和24年4月23日 (第三種郵便物認可)

## 前原新国交相会見

# 高速無料化を約束

## 交付金「話せる段階でない」

十六日、民主党の前原誠司衆院議員が国土交通大臣に就任した。十七日の就任会見で前原大臣は「高速無料化は国民的関心が強いことだと承知している。マネーフレストの前提条件に従い、段階的に実施する」と高速無料化に意欲を示した。前政権が実施した割引は継続する方針。社会実験を通じ、ほかの交通機関への影響を把握しながら行う。交付金問題については「話せる段階ではない」とした。

(竹内 聡)

**無料化の他機関への影響を把握**  
——高速無料化について意気込みを。  
前原 鳩山総理大臣からの辞令の一番初めに、高速道路無料化を段階的に進めることが書いてあった。重要施策の一つとしてしっかり進めていくことを約束した。

**前原 国民の理解を得なければすべての政策はうまくいかないと考えている。もとの料金に戻すのは国民の理解が得られない。前政権で実施した高速道路割引は、社会実験だと思っている。すぐにはやめず、どういったフランス面、ドイツ面があるのかつぎに話さしていく。**  
——無料化のバスやフェリーへの影響をどう認



17日の就任会見で「高速無料化によるほかの交通機関への影響は十分認識している」と語る前原国交相

識しているか。

前原 高速無料化による他業界への影響については十分認識している。今後社会実験を通じてシミュレーションで具体的に把握したい。

**ハブ空港・港 日本は出遅れ**  
——国土交通政策につ

いての印象は。

前原 国交省は公共事業だけでなく、社会資本の整備、公共交通の推進も大きな役割だと思っている。

——今後力を入れていきたい分野は。

前原 日本にとっての成長分野である、観光のさらなる推進を図りたい。

い。伸ばせるところをしっかりと伸ばしていくというところも、大臣として大事な観点ではないか。

——ハブ空港・ハブ港で日本は出遅れている。

前原 観光立国をバックアップするための空・港・港湾のあり方もしっかりと見直しなくてはならない。航空政策では、

オープンスカイの考えを進め、羽田空港の役割をより強化していくことが重要だと思っている。

——前政権が行ってきた会議体はどうするか。

前原 いったん白紙ベースにして見直していきたい。任意のものについてはすぐに白紙にする。

——一定例化してきた事務次官会見も廃止する。

前原 たた必要に応じて、報告の上行っても良いのではないかと。絶対してはためというところではない。

ない。

——暫定税率撤廃で運輸業振興助成交付金はどうか。

前原 個別の問題については、まだ話せる段階ではない。

◇ 前原 誠司氏(まえはら・せいじ) 昭和37年4

月30日生まれ、47歳。61年京大法学部卒業。平成5年衆議院初当選、13年民主党幹事長代理、17年同党代表、19年同党副代表。21年8月衆議院選6期目当選。同年9月国土交通大臣、内閣府特命担当大臣(沖縄および北方対策防